

建築士養成インターンシップ

学内インターンシップ A

2022年度開講・選択・4単位

Internship in Campus A

担当教員 三上晴久

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

到達目標 (目的含む)

授業の目的

実施設計図書を理解し、主として平面詳細図と断面詳細図を描き方を身につける。

到達目標

実施設計図書がどのように構成されているかを理解したうえで、実施設計図面を描くことができる。

大学院に在籍しているながら、建築設計事務所での実務設計に準ずる内容を経験することができる。

授業の概要

実施設計図の描き方を学ぶ。120時間を基準履修時間とするが、インターンシップの性格上、時間数が多くなる場合もある。実施設計図を描くことができるようになることが、学内インターンシップ A の目線である。学外インターンシップと異なり、学内で一級建築士の資格を持つ専任教員が担当することで、修士設計とも連動した指導プログラムを組み、より綿密な教育を行うことを目的としている。各特別研究指導教員が提示する個別プロジェクトを履修することによって、当該科目に認定される場合もある。

授業計画

以下が、想定される全 15回の授業だが、具体的な課題内容が変わると修正が加えられる。

- 1 : 9 : 30~18 : 30 (8) 課題説明、住宅の設計条件の整理
- 2 : 9 : 30~18 : 30 (8) 法規制の確認、設計案の作成
- 3 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 4 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 5 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、住宅設計案の確定
- 6 : 9 : 30~18 : 30 (8) 平面詳細図を学ぶ、平面詳細図を描く
- 7 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 8 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 9 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 10 : 9 : 30~18 : 30 (8) 断面詳細図を学ぶ、断面詳細図を描く
- 11 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 12 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 13 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 14 : 9 : 30~18 : 30 (8) 平面詳細図と断面詳細図をまとめる
- 15 : 9 : 30~18 : 30 (8) 平面詳細図と断面詳細図をまとめる

評価方法

平面詳細図と断面詳細図に対する理解度を確認した上で、制作された設計図を実務的な視点から評価する。

課題・試験に対するフィードバックの方法

提出された図面に対する改善点等を具体的に伝える。

使用テキスト

教員が用意するオリジナルテキスト

実習費

実習費は必要ない。

学内インターンシップ B

前期・選択・4単位

Internship in Campus B

担当教員 三上晴久

対面・遠隔の別

対面によって実施する。

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

到達目標 (目的含む)

授業の目的

実施設計図書を理解し、主として各部位の部分詳細図の描き方を身につける。

到達目標

実施設計図書がどのように構成されているかを理解したうえで、実施設計図面のうち部分詳細図を描くことができる。

大学院に在籍しているながら、建築設計事務所での実務設計に準ずる内容を経験することができる。

授業の概要

実施設計図の描き方を学ぶ。120時間を基準履修時間とするが、インターンシップの性格上、時間数が多くなる場合もある。実施設計図のうち部分詳細図を描くことができるようになることが、学内インターンシップ B の目線である。学外インターンシップと異なり、学内で一級建築士の資格を持つ専任教員が担当することで、修士設計とも連動した指導プログラムを組み、より綿密な教育を行うことを目的としている。

各特別研究指導教員が提示する個別プロジェクトを履修することによって、当該科目に認定される場合もある。

授業計画

以下、全 15回の授業計画だが、修正が加えられることもある。

- 1 : 9 : 30~18 : 30 (8) 課題説明、実施設計図書の理解
- 2 : 9 : 30~18 : 30 (8) 平面詳細図を学ぶ、平面詳細図を描く
- 3 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 4 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 5 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、住宅設計案の確定
- 6 : 9 : 30~18 : 30 (8) 断面詳細図を学ぶ、断面詳細図を描く
- 7 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 8 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 9 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 10 : 9 : 30~18 : 30 (8) 部分詳細図を学ぶ、部分詳細図を描く
- 11 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 12 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 13 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 14 : 9 : 30~18 : 30 (8) 終日作業、途中で進捗状況チェック
- 15 : 9 : 30~18 : 30 (8) 部分詳細図をまとめる

評価方法

平面詳細図と断面詳細図に対する理解度を確認した上で、主として、部分詳細図を実務的な視点から評価する。

課題・試験に対するフィードバックの方法

提出された図面に対する改善点等を具体的に伝える。

使用テキスト

教員が用意するオリジナルテキスト

各自準備物

製図道具一式。図面は手描きによって制作する。

実習費

実習費用は必要ない。

学外インターンシップⅠ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus I

担当教員 三上晴久

対面・遠隔の別

対面によって行われる。

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

到達目標（目的含む）

授業の目的

特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標

実施設計図を描くことができる。

実務設計の進め方を理解することができる。

授業の概要

特定の一級建築士事務所において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。大学卒業後2年間の実務経験を経ると一級建築士資格取得試験の受験資格が発生するが、それは「実務設計能力は時間数とともに高まり、一定の能力に到達するためにはそれ相応の時間を要する」と考えられているからであり、学外インターンシップはその考え方に基づいて開講される。最初の120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

授業計画

学外インターンシップⅠ～Ⅳ共通授業内容

- 1：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 2：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 3：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 4：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 5：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 6：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 7：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 8：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 9：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 10：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 11：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 12：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 13：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 14：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 15：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。

評価方法

学生が特定した一級建築士事務所の担当者に依頼して、学外インターンシップ時間における成果を評価してもらう。

その評価をもとにして、大学院として成績評価をおこなう。

実習費

一級建築士事務所に通う交通費等を含む経費等は、自費とする。

学外インターンシップⅡ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus II

担当教員 三上晴久

対面・遠隔の別

対面によって行われる。

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。学外インターンシップⅠを履修済みであること。

到達目標（目的含む）

授業の目的

特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標

実施設計図を描くことができる。

実務設計の進め方を理解することができる。

授業の概要

特定の一級建築士事務所において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。大学卒業後2年間の実務経験を経ると一級建築士資格取得試験の受験資格が発生するが、それは「実務設計能力は時間数とともに高まり、一定の能力に到達するためにはそれ相応の時間を要する」と考えられているからであり、学外インターンシップはその考え方に基づいて開講される。学外インターンシップⅠに加え120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

授業計画

学外インターンシップⅠ～Ⅳ共通授業内容

- 1：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 2：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 3：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 4：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 5：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 6：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 7：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 8：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 9：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 10：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 11：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 12：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 13：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 14：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 15：特定の一級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。

評価方法

学生が特定した一級建築士事務所の担当者に依頼して、学外インターンシップ時間における成果を評価してもらう。

その評価をもとにして、大学院として成績評価をおこなう。

実習費

一級建築士事務所に通う交通費等を含む経費等は、自費とする。

学外インターンシップⅢ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus III

担当教員 三上晴久

対面・遠隔の別

対面によって行われる。

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。学外インターンシップⅡを履修済みであること。

到達目標（目的含む）

授業の目的：特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標：実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業の概要

特定の二級建築士事務所において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。大学卒業後2年間の実務経験を経ると一級建築士資格取得試験の受験資格が発生するが、それは「実務設計能力は時間数とともに高まり、一定の能力に到達するためにはそれ相応の時間を要する」と考えられているからであり、学外インターンシップはその考え方に基いて開講される。学外インターンシップⅡに加え120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

授業計画

学外インターンシップⅠ～Ⅳ共通授業内容

- 1：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 2：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 3：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 4：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 5：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 6：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 7：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 8：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 9：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 10：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 11：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 12：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 13：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 14：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 15：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。

評価方法

学生が特定した二級建築士事務所の担当者に依頼して、学外インターンシップ時間における成果を評価してもらう。その評価をもとにして、大学院として成績評価をおこなう。

実習費

二級建築士事務所に通う交通費等を含む経費等は、自費とする。

学外インターンシップⅣ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus IV

担当教員 三上晴久

対面・遠隔の別

対面によって行われる。

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。学外インターンシップⅠ～Ⅲを履修済みであること。

到達目標（目的含む）

授業の目的：特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標：実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業の概要

特定の二級建築士事務所において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。大学卒業後2年間の実務経験を経ると一級建築士資格取得試験の受験資格が発生するが、それは「実務設計能力は時間数とともに高まり、一定の能力に到達するためにはそれ相応の時間を要する」と考えられているからであり、学外インターンシップはその考え方に基いて開講される。学外インターンシップⅢに加え120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

授業計画

学外インターンシップⅠ～Ⅳ共通授業内容

- 1：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 2：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 3：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 4：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 5：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 6：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 7：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 8：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 9：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 10：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 11：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 12：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 13：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 14：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。
- 15：特定の二級建築士事務所の指示に基づく業務補佐等。8時間以上。

評価方法

学生が特定した二級建築士事務所の担当者に依頼して、学外インターンシップ時間における成果を評価してもらう。その評価をもとにして、大学院として成績評価をおこなう。

実習費

二級建築士事務所に通う交通費等を含む経費等は、自費とする。

建築士資格にかかる実務経験認定単位

必要要件	インターン	演習・実習・実験	講義
実務1年 15単位以上	4単位以上	8単位以下	8単位以下
実務2年 30単位以上	4単位以上	8単位以下	8単位以下

※対象科目については大学院事務室で確認してください。